

ツカザキ病院を選んで良かった 4つの理由！

更なる キャリアアップ

私は4年間、他院での手術後に通院される患者様が中心となる地域の整形外科クリニックに勤務をしていました。急性期病院では、どんな治療や手術、リハビリが行われているのかを学びたく転職を決意しました。

現在、当院では変性疾患や外傷等に対して、最新の手術が毎日行われています。術前評価や手術見学、専門学会への参加で知識を深めています。今まで学んだことや経験を最大限に活かしつつ、更なるスキルアップができる環境だと感じています。

PT歴7年



働き型を変える

私は3年間、回復期病棟で勤務していました。当院は365日のリハビリ提供体制ではありますが、休日希望が配慮され、研修会・学会へは出張での参加が奨励されています。充実した福利厚生もあり、公私ともに両立できると感じました。

また疾患ごとにチーム医療が実践され、経験年数や職種間に問わずコミュニケーションが密に図れているところに魅力を感じ、ツカザキ病院への転職を決意しました。現在、SCU病棟にて急性期の脳卒中リハビリテーションに日々動んでいます。

PT歴8年



充実したOJT

私は4年間、通所リハ・訪問リハを行っていました。急性期でのセラピストの関わりが将来の在宅生活に大きく影響することを感じるようになり、エビデンスに基づくアプローチが学びたく転職を決意しました。

実習でも経験のない急性期治療に戸惑うこともありましたが、担当プリセプターの指導や疾患別班内でのディスカッションを通して、日々切磋琢磨しています。生活期での活動・参加に繋げる、『質』と『量』を意識したリハビリテーションを心掛けています。

PT歴7年



資格取得への 支援体制

当院の魅力は、自分を高めるために必要なスキルアップへの取り組みが充実しているところです。具体的には、最新の知見を得るために学会や研修会参加、研究発表や症例検討など院内全体でバックアップする体制が整っています。

更なる質の向上を目指して大学院へ進学した際にも理解と協力が得られました。このような恵まれた環境に感謝し、患者様の治療成績向上を目指して努力しています。今後も知識や技術に加え、EBMに基づいた臨床と研究の継続をしていきます。

PT歴12年



キャリアセラピスト教育プログラム

マンツーマン指導によるプリセプター制度を導入

1ヵ月

疾患別班に所属しプリセプターの訓練見学から始める。プリセプター監視の下、急性期治療や合併症、ルート管理などを学習する。
能力に応じて、段階的に重症度の高い患者を担当する。

月末目標

担当患者と疾患別班内の代診を合わせて7人程度のリハビリを実施する。

2ヵ月

独立で訓練する担当患者数が増え、高度な管理を必要とする患者のみ監視下で実施する。

月末目標

担当患者と疾患別班内の代診（軽度～重度）を合わせて9人程度のリハビリを実施する。

3ヵ月～

重症度による疾患別班内での担当制限はなくなり、他の疾患別班（軽度～中等度）の代診を開始する。HCU・SCU患者も含めて、独立で訓練する。
他セラピストと同様の業務内容、業務量となる。年間通して、担当プリセプターが相談を受け、リハ科・疾患別班の全体でフォローしていく。

自らが積み上げてきたキャリアの上に、更に経験値を積み、大きな成果をあげる。

病院見学へ是非お越し下さい！

社会医療法人三栄会
ツカザキ病院



◀見学はQRコードからエントリーできます▶

<http://www.tsukazaki-hp.jp/inquiry>

〒671-1227 兵庫県姫路市網干区和久 68-1

Tel: 079-272-8570(人事直通 担当 土井)

新病棟が設立されました！

回復期リハビリテーション病棟

回復期リハビリテーション病棟ってどんなところ？

回復期リハビリテーション病棟は、脳血管疾患または大股関節部骨折などの病気で急性期を脱しても、まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者様に対して、多くの専門職種がチームを組んで、集中的なリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくことを目的とした病棟です。

(一般社団法人 回復期リハビリテーション病棟協会より)

当院は、平成30年11月に40床の回復期リハビリテーション病棟を開院しました。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・臨床心理士などの手厚い人員配置で、質・量ともに充実したリハビリテーションが提供できる体制を整えています。

365日リハビリテーションの実施や最新の治療機器を用いた科学的根拠に基づいた治療、入院生活の全てをリハビリテーションの一環とするケア、患者様やご家族様の絶え間ない支援を目指した前方・後方への連携など、多くの専門職種が協働で行います。



回復期リハビリテーション病棟ってどんなところ？

回復期リハビリテーション病棟は、脳血管疾患または大股関節部骨折などの病気で急性期を脱しても、まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者様に対して、多くの専門職種がチームを組んで、集中的なリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくことを目的とした病棟です。

当院は、平成30年11月に40床の回復期リハビリテーション病棟を開院しました。理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・臨床心理士などの手厚い人員配置で、質・量ともに充実したリハビリテーションが提供できる体制を整えています。

365日リハビリテーションの実施や最新の治療機器を用いた科学的根拠に基づいた治療、入院生活の全てをリハビリテーションの一環とするケア、患者様やご家族様の絶え間ない支援を目指した前方・後方への連携など、多くの専門職種が協働で行います。

回復期リハビリテーション病棟は、脳血管疾患または大股関節部骨折などの病気で急性期を脱しても、まだ医学的・社会的・心理的なサポートが必要な患者様に対して、多くの専門職種がチームを組んで、集中的なリハビリテーションを実施し、心身ともに回復した状態で自宅や社会へ戻っていただくことを目的とした病棟です。



リハビリテーション科 主任 西本 達朗

リハビリテーション科は、科学的根拠のある先進的なリハビリテーションを患者様に提供する体制を整えています。最新治療機器として Welwalk (以下、ウェルウォーク) とアイビス (以下、アイビス) の導入により、日常生活動作シミュレーターを導入しました。

ウェルウォークは、トヨタ自動車と共同開発された歩行補助ロボットです。中核地域では当院が初めて導入し、全国でも数少ない最新治療機器となります。従来のリハビリテーションでは重度の脳卒中患者様は歩行量が十分に歩行練習が実施できなかったが、この機器を使用することで早期より安全な歩行練習が可能となりました。



Welwalk

アイビスは患者様の麻痺した筋肉の微弱な活動を電極で感知し、その活動に応じた電気刺激を麻痺した筋肉に与え、運動を誘発し運動機能改善の補助してくれる機器です。近年、脳卒中で麻痺した腕や手指の新しい治療法と



地域連携室 主任 古田 一郎

スタッフ教育に力を入れており、学会発表や研修会に積極的に参加し、日々自己研鑽をしています。「患者様もスタッフもみんな笑顔になる」ということを合言葉に患者様に寄り添い、問題点に立ち向かい、患者様の1日でも早い社会復帰を全力でサポートしてきけるようなチームにしたいと思っています。

当院では社会福祉の専門家である医療ソーシャルワーカー (以下MSW) が患者様およびご家族の生活上の不安や心配ごとについて共に考え、解決の糸口が見つかるよう最良の支援をさせていただきます。

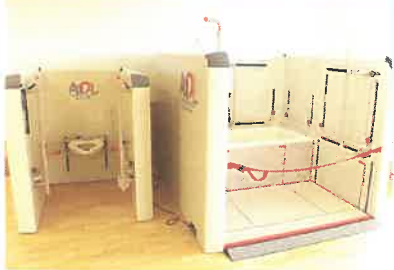
突然の疾病によって患者様、ご家族に生じた不安は少なくありません。更に専門的な「医療」を受けられるのは回復期リハビリテーションを行うと共に「生活」の再開を考えていく必要があります。MSWは医師をはじめ看護師、リハビリテーション科からの情報を基に患者様の生活の再開に向けてその不安や心配ごとを受け止め、整理し、その方が望む新しい生活の形を作り上げていくための援助を行っています。そして、地域において安心して自らの生活を再び営んでいけるよう適切な生活環境の調整・生活の場の提案、社会保障制度等の案内を社会福祉の立場から幅広く支援させていただきます。

MSWは様々な社会背景をお持ちの患者様の真の思いに寄り添い、「一人の患者様」として個別に支援させていただきます。



IVES

日常生活動作シミュレーターは、手すりの位置や高さ調整ができ、自宅環境を想定した日常生活動作練習をすることが可能です。そのため福祉用具導入や住宅改修のサポートがスムーズに行えます。



日常動作シミュレータ



新館4階病棟 副館長 中野 千亜紀

11月1日より、ツカザキ病院新館4階で、新しく40床の病棟が開院されました。急性期で治療を終了した患者様が、自宅に退院されるまで、リハビリテーションを中心に療養をして頂く病棟となります。私たち病棟スタッフは、医師、リハビリテーション科、医療相談員と情報共有を行い、1日でも早く患者様が退院できるように、時間のケアを提供します。朝の活動導、立ち上り訓練、指先のリハビリテーションでは折り紙、ちぎり絵、塗り絵など就寝となるまで、全てがリハビリテーションケアとなります。患者様のリハビリテーションは日中のみではなく、深夜も継続です。トイレ誘導や飲水などできる事はさらに上を目指し、できない事はできるようにとケアの方法を患者様、ご家族と共に考え自立を目指します。そして、できるようなれば、次の課題への挑戦が始まります。毎日の積み重ねの中で患者様が段々と生活のリズムが確立し、日中のベッドで過ごす時間が減っていきます。

開設したばかりで、試行錯誤の毎日。ご迷惑をお掛けすることも多いと思いますが、笑顔で来てく「VES」を主軸に多職種の力を結果としてがんばりますので、よろしくお願致します。